

して滝があるだろうかという不安を抱いていただけに、まずは上々の首尾といわねばならない。

やがて30mの滝に出る。この沢最大の滝である。上段は階段状で、下段は若干ハング状となっている。岩はモロく、ちょっと取り付けない。右岸から搦き、樹林帯をトラバースする感じで滝の中段に出て、登る。このあとすぐ二俣となった。左俣へルートをとる。

二俣から先は、もう滝はかからない。そのかわり、ナメが断続するようになる。もっとももう源流に近いから、ナメだといっても、爽快感はない。

やがて雪渓が出てきた。ウェディングシューズを雪面に蹴りこむようにして登る。こんな時には地下足袋より便利である。

間にガレ場をはさんで、もう一つ雪渓。これを越えると、もう沢筋は消え、ヤブこぎとなる。20分程で稜線の登山道に出た。笠松のある所であった。

(記・

【タイム】 出合(7:15)→三ノ沢出合(9:10)→二俣(10:00)→終了(10:55)→稜線(11:15)

加藤谷川流域の沢

加藤谷川は、那須の西面を流れる阿賀野川の支流の一つである。昨年に続いてこの地域の沢の遡行に積極的に取り組んだので、会報No. 23の記録と合わせ、参考にしていただきたい。

旭沢(仮称)右俣

1985年8月24日

L

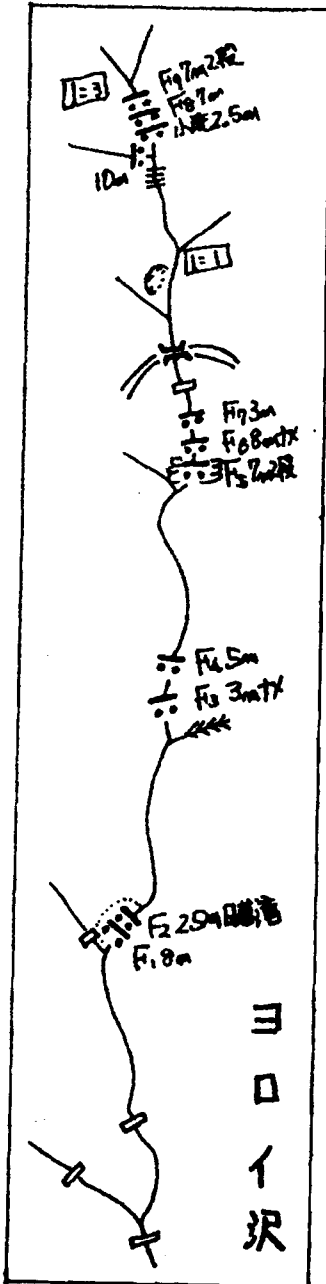
8:00遡行開始。旭沢(仮称)の二俣付近では砂防ダムの工事が行なわれていた。そういえばこのあたり、山肌のあちこちが崩壊している。

旭直沢(仮称)の出合でちょっと勘違いをしまして、旭沢右俣に入るのに少し手間取ってしまった。

右俣に入ると、すぐ10mの滝。右岸から小さく搦いて越す。それに続いてまた10mの滝。ここも右岸を搦く。このあたりあちこちガレているので、通過にも注意が必要だ。

2つの大きな滝を越えたあとは、小滝が連続するようになる。次々と出てくるので、結構楽しい。

やがてこの沢最大の滝15mに到着。右岸を捲く。岩がモロいので、かなり大きく捲く。右岸から合流する小沢を登ってから草付きに入りこむのが一番合理的なルートのようなのである。



この先はぐっと平凡になる。水の流れもかぼそい。そしてそれもブッシュの中に消えそうになっているのを確認して、登ってきた沢をそのまま下降する

(記・)

[タイム] 旭沢右俣出合(8:00)→
遊行終了(9:50)

ヨロイ沢

1985年8月24日

L

旭沢(仮称)を少し下ってからヨロイ沢に入る。日暮滝までは何も無い河原歩き。日暮滝は25mの大滝。その手前には8mの滝がかかっている。手前の8mは右からトライするが、中間がモロいので断念。右岸を捲く。日暮滝は、右岸のブッシュ帯を登り、滝の落口へトラバース。一応ザイルを出して、ビレイして通過。

しばらく歩くと、3mと5mの滝が出てくるが、なんとなくパス。そのあと左より小沢が入る所にペンキで「登り口」の表示がある。釣師の目印である。ここよりF₅~F₇までの滝はすべて直登する。

堰堤を越すと橋。ここで小休止後、先に進む。

すぐ二俣となるが、右に入る。右岸にスラブを見て先に進むと、また二俣。ここは左に入る。やがて小滝が出てきて、その先に7mの滝が2つ続く。すべて直登。

この先すぐ二俣となるが、もう水も潤れたので、遊行終了とする。橋まで下降し、あとは林道を下山する。

